

< 研究成果の紹介 >

日本ナシ新品種「福水」の消費者志向アンケート

農業研究部園芸グループ

1. 成果の内容

1) 調査目的

「福水」は三重県津市の藤井崇明氏が「筑水」の実生から選抜育成し、2001年11月22日に品種登録された日本ナシ新品種で、育成地（三重県久居市）において9月上中旬に成熟する赤ナシです。今回、津一志地域農業改良普及センターと協力して、当品種の商品性および品質的な評価を、「豊水」を対照品種として、アンケート形式で育成者直売店への来客177名を対象に調査（9月7～27日）しましたので、その結果を紹介します。

2) 結果の概要

調査対象者は、女性53%、男性47%、年齢構成は、30歳未満19%、30歳代18%、40歳代17%、50歳代31%そして60歳代以上が15%でありました。

果実の大きさは、自家消費向け（79%）や贈答向けにも適する（82%）との評価であったが、15%の女性は、自家消費用としては大きすぎると答えています。外観の総合評価は、対照品種の「豊水」よりも良い52%、同等42%でありました。

果実の甘み（糖度）は90%が適当、酸味は適当および酸味を感じないが90%を占めましたが、調査日が遅くなるほどその割合が上昇しました。また、年齢的には40歳代以下の比較的若い層で、7人がひとりが酸味を感じるとしています。果実の硬さは適当が67%を占めましたが、若い年齢層や調査日が早いほど、硬いと感じるとの回答が多くみられました。また、51%の人が、独特の香りがあることを認めていました。総合的な食味評価は、対照品種の「豊水」よりも良い68%、同等20%であり、多少粗質（ざらつき）感（10%）の指摘もありましたが総じて良好でありました。

販売価格（「豊水」の6割高）は、20%の人は高いと感じているものの、大部分の人は妥当であり、

総合的に86%の人が、「福水」は贈答用に向いていると回答しています。さらに、今後の購入品種についても、「福水」74%で、「豊水」の14%を大きく上まわり、その評価の高さが伺われました。

以上より、「福水」の総合的な評価は、やや硬さや酸味を感じる時期や人があるものの、外観および食味上において対照品種の「豊水」と同等以上であり、また、果実の大きさも「豊水」より大きく贈答用として適すると評価する人が多く、「豊水」に変わる贈答用品種として普及が期待されると思われます。

表1 アンケートに供試した平均的な果実品質
(平成13年9月10日, 原木)

品種	GA 処理	果重 (g)	果形* 指数	果色* (CC)	糖度 (%)	硬度 (lbs)	pH
福水	有り	490	120	4	13	6.3	4.66
豊水	有り	368	115	5	13	4.9	4.57

*カラーチャートは地色 果形指数は(横/縦)×100

2. 技術の適用効果と適用範囲

「福水」の消費者志向性や贈答用評価が高いことが判明しましたので、普及性は高いと思われます。本県での導入適地としては、既存産地であればその可能性が高いと思われます。なお、現在、県下代表産地の5農家圃場において、5ヶ年間にわたり「福水」の地域適応性の現地試験を実施しており、平成14年産から果実品質調査を開始したところです。

3. 普及、利用上の留意点

「福水」の受粉樹としては、「幸水」は親和性がないので不適合でありますので、「豊水」等他のS因子グループの品種を利用下さい。また、早期収穫は、果実品質がやや劣る恐れがありますので慎重、品種特性が十分発揮出来る完熟収穫を心掛けて下さい。
(現紀南果樹研究室 前川哲男)

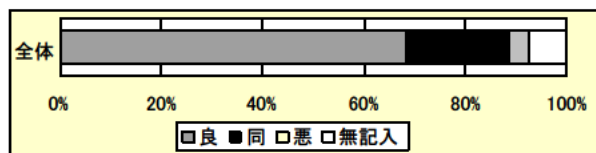


図1 「福水」の総合的な食味評価(対照「豊水」)

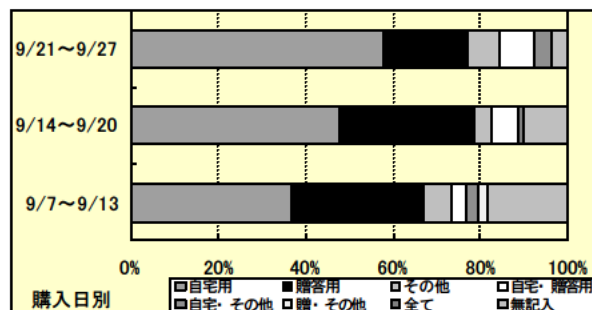


図2 「福水」の時期別購入目的

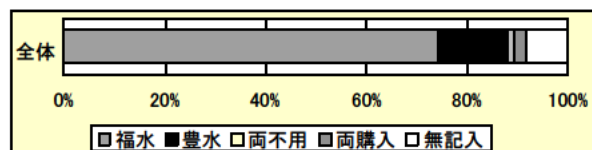


図3 今後の購入希望品種